

第V章 まとめ

第1節 島之内萩崎遺跡の弥生時代の調査成果

本遺跡では、今回報告した3つの地点全てから弥生時代～古墳前期初頭の遺構や遺物が確認された。第2地点では中期前半、後半～後期初頭、終末期～古墳前期初頭の遺物が出土しているが、当該時期の遺構は不明瞭である。第3地点では溝状遺構4からまとまった量の土器が出土している。溝状遺構4は中期前半の土器を少量含むが、弥生時代中期後半～後期初頭（河野4期：前掲）の下城式甕と、いずれも搬入品で赤色顔料が付着した須玖式鋤先口縁壺66や豊後系壺67がまとまって出土していることから、後者の時期の遺構と考えられる。なお、溝状遺構4は土坑5と重複しており、溝状遺構4出土の免田式長頸壺4型式（中村1988）や庄内式系小型器台を始めとした土器群は土坑5に伴うと考えられる。土坑5は甕6a型式（河野2019）や、タタキ痕を残す甕、鉢、小型壺といった近畿第V様式系を含む土器群で、古墳時代前期前半（VIa～VIb期：河野2019）に比定される。第3地点ではこの他に、搬入品の伊予系凹線文壺157や擬凹線文を施した在地産大型器台または壺151、内外面に赤色顔料が付着した搬入品の下城式系壺154といった外来系土器や、結晶片岩の可能性がある剥片が出土している。

第5地点で検出された溝状遺構6は、本遺跡が所在する砂丘の東側縁辺部に造られており、溝の東側は河成段丘面へと移行する。掘削は下層出土遺物から前期末（栄畠2c期：前掲）頃と考えられ、中期後半（河野3期：前掲）までには検出面まで埋没している。本遺跡では、第1地点（未報告）でも最大幅2mを測る断面V字の大溝が検出されており、出土遺物も中期が主体とみられ、位置関係から第5地点の溝状遺構6と接続する可能性もある（第60図）。いずれにせよ、弥生時代前期末～中期後半の島之内萩崎遺跡は、大溝（環濠）を伴う拠点的集落の一つであると考えられる。

【引用文献】

- 河野裕次 2019「宮崎平野南部における弥生時代後期から古墳時代前期の土器様相一編年の細別と外来系土器の影響について」『宮崎考古』第29号 宮崎考古学会
- 中村直子 1988「免田式土器再考」『人類史研究』第7号 人類史研究会



第60図 第1地点・第5地点溝状遺構位置図 (S=1/5000)

第2節 島之内萩崎遺跡の近世の調査成果について

『佐土原藩譜』には「元禄3年（1690）、6代佐土原藩主島津惟久が番代を務めた島津久寿に3000石を分知し、島之内に移った」と書かれており、ここから旗本島之内島津家が始まった。島之内萩崎遺跡にはこの島津家の屋敷があった場所と言われており、第3地点は『佐土原藩分限帳』に記載されている分地領給人格（八石内物成三俵）初山甚蔵の屋敷地の南端に当たる。また第3地点調査時の聞き取りで島之内島津家屋敷地が第3地点の西側、第2地点の北側の区画にあったという情報を得ることができた（第2・4図）。この島之内島津家の西側と南側には島之内集落の中心となる通りがあったようで、これは「佐土原藩領図（広瀬旧城下之図）」で確認することができる。第2地点と第3地点では溝状遺構が検出されており、これらは武家集落の区画やこの通りの痕跡であった可能性が考えられる。

今回報告した第2・第3地点では一定量の近世の陶磁器類が出土している。宮崎市では近世の調査事例が蓄積されており、特に佐土原城下では各調査地点で出土した陶磁器に特徴がみられることが分かっている。それらと今回の調査成果について表18にまとめた。この表を見ると佐土原藩の上級武士団である追手口の屋敷地からは肥前以外の各地の陶磁器が出土しており、鳴之口・十文字口の屋敷地からも少量ではあるが肥前以外の産地の陶磁器が確認されている。しかし、今回の調査では備前焼の徳利と堺・明石産の擂鉢が各1点見られる他には肥前以外の産地の陶磁器を確認することができなかった。また高級品とされる白薩摩や京焼色絵陶器も出土していない。調査面積や遺跡の残存状況によって出土遺物の有無については影響をうける可能性は考えられるが、このような陶磁器等の出土状況の違いは各地点での武家の禄高の差を示していることが推測される。

第18表 佐土原藩領域における出土陶磁器一覧表

遺跡名	島之内萩崎3	佐土原城6次		佐土原城8次	平城
人名	初山甚蔵	渋谷直記	郡司範平	池田舟外	本田平之丞
家格（役職）	給人	寄合	騎馬	中小姓	徒歩
石高	8	300	110	35	13
肥前陶器	○	○	○	○	○
肥前磁器	○	○	○	○	○
肥前高級品	×	○	○	×	×
関西系陶器	×	○	○	○	○
瀬戸美濃焼	×	○	○	○	○
萩焼	×	○	○	×	×
備前焼	○	○	○	×	×
京焼色絵	×	○	○	×	×
中国産磁器	×	○	○	×	×
薩摩磁器	×	○	○	×	×
白薩摩	×	○	○	×	×
黒薩摩	×	○	○	○	○
調査面積	74 m ²	2000 m ² 以上	800 m ² 以上	400 m ²	50 m ²
参考文献	本書 (宮崎市143集)	宮崎市109集『佐土原城跡第6次調査』		宮崎市107集『佐土原城跡第8次調査』	宮崎市131集『平城遺跡』

※肥前磁器の高級品とは有田焼・色絵磁器・望月碗・大皿など

※佐土原城跡6次調査面積は両家を足して3125 m²である